

週日の説教

金 大烈 神父 2009年8月20日(木)

《余裕とは、分かち合えること》

今日の福音(マタイ 22・1 14)は、何回も話されてきた内容です。そして終末のことばかり話されているので、聞くのに少し疲れます。今日は、別の話を分かち合いたいと思います。

「余裕」という言葉がありますね。よい言葉だと思いますか、それとも悪い言葉だと思いますか？ 大体私たちは、「余裕・ゆとり」という言葉を使う場合、時間的、経済的な意味で使います。皆様は、余裕がある暮らしをなさっていますか？ 余裕に満たされて暮らしている人は、手を上げてください。二人が迷いながら手を上げましたね。(笑)

では、「余裕」とは、どういう意味でしょうか。心や時間に余りがあることでしょうか。ある小説家が書いた本を読んで、私は今まで「余裕」の意味をとり違えていたのではないかと思いました。それを皆様に紹介します。

その小説家は、「余裕」というのは、「やりたいときに、やりたいことをする」ことだと言っています。たとえば、時間がいくらあっても、やりたいことがなければその人は余裕のある生活をしていません。お金がたくさんあっても使うところがなければ、それは余裕ではありません。という内容の本でした。これは、よい話だと思いました。逆に言いますと、お金がなくても、時間がなくても、人間は余裕のある暮らしが出来ることになります。私たちは、いつも何かに、時間に、経済的なことに、追いかけています。しかし、「忙しさの中の暇」という言葉もあります。「忙しい、忙しい。」「足りない、足りない。」と言いながらも、どのような心を持つかによって全く変わることを意味しています。

余裕はいい言葉だと皆様はおっしゃいましたね。それならば、私たちは、環境や条件に関係なく余裕のある暮らしをしなければなりません。しかし、余裕がある方は手を上げてください、と言ったら、自信満々に手を上げた方は一人もいなくて、迷いながら手を上げた方が二人いらっしゃっただけですよ。

さあ、皆様は、余裕を持ちましょう。やりたいことをやってください。お金があってもやりたくないことはしないでください。それは地獄です。お金はなくても、私たちはその中で十分に余裕のある心を持つことができると思います。今は、余裕を求めているのに余裕を捨てている時代です。ですから、いつも追いかけている感じがします。昔と今を考えてみたら全然違います。昔は、本当に豆一粒でも分かち合えるくらい余裕がありました。お弁当の中にあるたくあんでも、分かち合える余裕がありました。今は、たくさん持っているのに余裕がありません。私たちは、追いかけている気持ちから開放される必要があると思います。祈るときも、願うばかりでなく、賛美をしながら、「私を憎んでいる人がいて、私も憎んでいます。でも、相手の人と私を一致させてください、和解させてください。相手の人のことを嫌いです、それが悪いことでなければ私が好きになれるように導いてください。」と祈ることも必要です。もし私たちが探そうとすれば、祈りから食べることまで全ての中に余裕を探せます。皆様と私に、余裕のある人生がどのくらい残っているかわかりませんが、何よりも余裕のある暮らしをしようと頑張ってみましょう。そうすれば、自然に感謝と喜びの歌が口から出て来ると思います。

ある意味で、余裕のない人生を過ごしているのは罪になるかもしれません。天地創造の時に、神様が、何かを作ると必ずおっしゃった言葉があります。それは、「良し。(見好い)」です。何を作っても、「良し。(見好い)」とおっしゃったということは、神様が私たちのこの世の中を美しく作ったということだと思います。ただ、その中に住んでいる私たちのいろいろなことによって、汚く汚れている世界が目に入るのかもしれない。本当に、残っているこの時間、全てのものを、余裕たっぷりに分かち合うことができるように願いましょう。

ありがとうございました。